

# 水曜通信 3

2017年  
6月

東北学院大学 私立大学研究ブランディング事業通信  
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」



## 第3回水曜礼拝（公開大学礼拝）は 6月14日（第2水曜日）18:30-19:00

前 奏：F.トウンダー「来たれ聖霊、主なる神よ」

讃美歌：34番「いのちのたびじは」

聖 書：『ヨハネによる福音書』12章 20節～ 26節

説 教：原田浩司（本学准教授）

「十字架に咲く一粒の麦」

頌 栄：544番「あまつみたみも」

後 奏：J.S.バッハ「来たれ、創り主にして聖霊なる神よ」BWV667

奏 楽：小野なおみ（本学礼拝オルガニスト）

### 【曲目解説】

前奏、後奏いずれもペンテコステ（聖霊降臨）のドイツコラールが元になっています。トウンダーはバッハよりもおよそ70年前に活躍した北ドイツの作曲家・オルガニストであり、バッハで頂点を極めるドイツバロック音楽の礎を築きました。

（小野なおみ）

### ～礼拝後～

礼拝のあとは、19時10分からそのまま礼拝堂にて、東北学院大学聖歌隊の合唱と中川郁太郎（特任准教授）の独唱による讃美があります。



聖歌隊・クリスマス礼拝（土樋キャンパス）2016年12月15日

---

## 【聖歌隊の紹介】

東北学院大学には学生会に所属する幾つかの合唱サークルがありますが、聖歌隊は宗教部に属し、約25名の部員によって活動しています。大学の入学式や卒業式、クリスマスなどの行事や、大学礼拝、宗教音楽の夕べなどで歌っています。昨秋より声楽家の中川郁太郎氏を指導者に迎えてさらに活発に活動しています。

(顧問 宗教部長 野村信)

## 【曲目解説】

\* 聖歌隊 讃美歌「輝く日を仰ぐ時」カール・ボーベリ作詞、スウェーデン民謡（《讃美歌第二編》161番）

スウェーデンの伝道者カール・ボーベリの実体験にもとづいて書かれたこの讃美歌は、同国の民謡の旋律とともに歌われ普及しました。自然の働きの中に神を感じるわが国古来の信仰にも近い、大変興味深い歌です。

\* 独唱 夕べの讃歌「愛すべき日の輝きは」ヨハン・ゼバスティアン・バッハ編作《シメツリ歌曲集》より

1736年に、ドイツはツァイツのカントル（聖歌隊長）だったシメツリが出版した『音楽つき歌集』は、バッハが編纂に関わったことによって現在ではバッハの《シメツリ歌曲集》として知られています。本日はその中の1曲、夕べの讃歌を演奏します。



\* 独唱 アイオナ共同体讃美歌集より「望み消える時、心よ歌え」ジョン・ベル&グラハム・モール作詞作曲  
現代の讃美歌創作の興隆、いわゆる Hymn Explosion

の一翼を担うスコットランドのアイオナ共同体で、牧師ジョン・ベルを中心に信徒たちの間で生まれた讃美歌のひとつです。神が与えた人間の「歌」というものの、苦難の時における働きを歌っています。

\* 聖歌隊 讃美歌「日暮れて四方は暗く」ヘンリー・フランシス・ライト作詞、ウィリアム・ヘンリー・モンク作曲（《讃美歌》39番）

キングズ・カレッジの聖歌隊長だったウィリアム・モンクがライトの詩に作曲したこの讃美歌は、英米の教会を中心に夕べの歌としてひろく愛唱され、わが国でも古くから夕拝などでさかんに歌われてきました。

(中川郁太郎)

---

## 第2回水曜礼拝報告（説教：野村信、奏楽：小野なおみ）

5月10日（水）18：30 - 19：00

前 奏：J.ラインベルガー「オルガンソナタ第11番 第2楽章"カンティレーナ"」

讃美歌：39番「日くれて四方はくらく」

聖 書：『ルカによる福音書』24章50節～53節

説 教：野村信（本学教授、宗教部長）

「キリストよみがえりて、世界の主となり給えり」

頌 栄：540番「みめぐみあふるる」

後 奏：W.フォークス「アレルヤ」



### 【説教要旨】

ラーハウザー記念礼拝堂のステンドグラスには、主イエス・キリストの復活と、それに続く昇天が描かれていますが、そのことはまさしくユダヤ民族の神から世界のすべての民の神となられたことを意味します。こうして、この時以来私たちは、どこにあってもいつの時代でも、キリストのもとで礼拝し、讃美し、祈ることができます。キリストが示してくださった「平和と共生、博愛」の、神と人への愛を大切にしてお過ごしいきましょう。（野村信）

### 【曲目解説】

ヨーゼフ・ラインベルガー（1839 - 1901年）はドイツの音楽家で、オルガン曲を幾つも残していますが、この「カンティレーナ」は単独で良く演奏されます。深く落ち着いた低音に支えられて、高音部が天空を舞うように響き渡るメロディーは聴く者たちの心を魅了してやみません。今回、特に前奏にお願いしました。感謝！（野村信）

後奏の「アレルヤ」はイースターによく歌われる讃美歌75番「ものみなこぞりて」のメロディーが元になっています。作曲者のフォークスはイギリスの作曲家・オルガニストです。（小野なおみ）

～礼拝後～

礼拝に続いて19時5分から30分まで、グリークラブOB会と現役のグリークラブの合同合唱で讃美しました。

曲目は：Nobody knows the trouble,  
Massa Jesus, O Lord, Deep River, Ständchen  
讃美歌 405番「かみともにいまして」の6曲でした。



5月10日の水曜礼拝に現役の学生と共に讃美の機会を与えて下さり感謝しております。礼拝堂の響きが良く私たちも心地よいハーモニーを感じました。又、機会がありましたらレベラアップした演奏をしたいと思っております。（グリークラブOB会 渡辺真人）

## ブランディング事業共催及び協賛の講演会のお知らせ

### ◆ヨーロッパ文化総合研究所公開講演会

7月8日(土) 13:30-17:00

土樋キャンパス 8号館5階押川記念ホール

「古代ローマにおける呪詛・呪文 一裏の精神史—」

奥山 広規 (岡山理科大学・広島商船高専・非常勤講師)

志内 一興 (中央大学他兼任講師)

大谷 哲 (東北大学大学院文学研究科・専門研究員)



### ◆文学部総合人文学科公開講座

7月8日(土) 13:00-15:45

土樋キャンパス ホーイ記念館3階H302教室

「パラドクサ —福音を恥とせざ—」

鐸木 道剛 (本学教授)

阿久戸義愛 (本学講師)



### ◆キリスト教文化研究所第58回学術講演会

7月29日(土) 13:30-15:30

土樋キャンパス ホーイ記念館ホール

「宗教改革再考 —キリスト教人間学の視点から—」

金子 晴勇 (聖学院大学名誉教授)



いずれも申込不要、参加無料です

## 近日、ステンドグラスの修理が始まります。



ラーハウザー記念東北学院礼拝堂の「昇天」ステンドグラスは、太平洋戦争中は板で覆われて守られました。空襲による破壊も免れ、東日本大震災にも耐えて80年以上を経ました。既にガラス面は下から見ると、たわんでいます。しばらくステンドグラスのない礼拝堂となりますが、「地上の天国」としての芸術を永続させるためですので、ご理解ください。

文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学  
私立大学研究ブランディング事業通信 第3号  
2017年5月31日発行  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1  
TEL：022-264-6405 (研究機関事務課)  
E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp  
URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/